

陶芸技術者専門研修を通じた 笠間焼の製品化支援

支援先

鷲沢ワシ子、西岡武浩

【支援の背景】

当センターでは、陶磁器の成形技術や焼成技術などの様々な技術相談に対応し、笠間焼の窯元や陶芸家を支援しています。その中でも特に釉薬に関する相談は多く、内容に応じて陶芸技術者専門研修を実施して、スキルアップや課題解決、製品化を支援しています。ここでは、令和4年度の陶芸技術者専門研修とその後の支援により製品化された事例を紹介します。



図1 掛け分けカップ
(支援例① 鷲沢ワシ子)

【支援内容】

＜支援例① 鷲沢ワシ子＞

掛け分け技法（一つの陶磁器に複数の異なる釉薬を施す）を用いた製品開発に取り組みたいため、自身の製品に既に使用しているグレー系発色の釉薬と色の相性が良く、釉はがれとよばれる欠陥などが起こりにくい釉薬を開発したいという相談を受けました。研修では、釉薬の焼成見本や研究事例の紹介、実験内容の提案、焼成条件に関する情報提供などの指導を行い、掛け分け用の釉薬開発を支援しました。

掛け分け用釉薬をカップの内側底面に用いた作品など（図1）を、ふたり展「ポッケのなかには。」（R5. 2. 15～3. 5、笠間工芸の丘）において販売を開始しました。



図2 一年後展 2023 製品例
色釉薬カップなど
(支援例② 西岡武浩)

＜支援例② 西岡武浩＞

笠間陶芸大学校の令和3年度卒業生である西岡氏から、陶芸家として本格的な活動開始に向けて、特徴のある釉薬を開発したいと相談を受けました。笠間長石を用いて、透明感や光沢感の強い、鮮やかな色の釉薬を得たいとの要望をふまえ、釉薬実験の研修指導を行ないました。

自身初となる展示会「一年後展 2023」（陶芸大学校 令和3年度卒業生グループ展、笠間工芸の丘、R5. 3. 1～3. 19）において、研修で得られた釉薬を用いた製品（図2）の販売を開始しました。

【開発した製品の紹介】

支援の結果、製品化された製品は図1及び図2の通りです。

基礎となった事業	令和4年度	陶芸技術者専門研修（釉薬技術、総合）		
	令和4年度	試験研究指導費（技術相談、設備使用）		
担当グループ	窯業技術G	グループ長	寺門 秀人	TEL:0296-72-0316
		首席研究員	児玉 弘人	
	主任研究員	吉田 博和		
	陶芸人材G	グループ長	尾形 尚子	
会計年度職員		新島 佐知子		